

カレッジ里山 花実の森 活動報告 2011年6月
(カシノナガキクイムシ被害調査・対策)

第4号(他再編)

活動日	時間	天候	記録者
2011年6月13日(月)	9:30~14:30	(晴)	
2011年8月4日(木)	9:30~12:00	(晴)	(菅田)
2017年9月5日(火)	9:30~12:00	(晴)	
2018年3月28日(月)	9:30~12:00	(晴)	
2018年4月9日(月)	9:30~12:00	(晴)	
2018年6月27日(月)	9:30~12:00	(晴)	
参加者氏名 (延べ15名)	(2011年6月13日) 菅田忠志 谷口博 松本義彦 笹井俊司 (2011年8月4日) 菅田忠志、西田圭一、能村裕子 (2017年9月5日) 菅田忠志 (2018年4月9日) 松本治美、山田喜義、水島康夫、菅田忠志、橋野美子、塩ノ谷年子 田路義弘		
作業内容	ナラ枯れは、10年以上前に日本海側の森林で被害の拡大が認められ、時間をかけて軟化してきている。松枯れがマツノザイセンチュウ(外来種)が、マツノマダラカミキリを介して末に侵入するのに対し、ナラ枯れは、カシノナガキクイムシの背中にある菌の袋にナラ菌を入れて運び、コナラに侵入し、金を育てて共生、繁殖した菌が樹の導水管を詰まらせて枯れしていく。 アース製薬のカシノナガホイホイという粘着シートの粘着面を内側に巻き付け、成虫になったカシナガが飛翔するために穴から出てきたところでくっつけ、被害拡大を防止する方法であるが、根絶は難しい。		
2011年6月13日 巻きつけ			今回提供していただいた粘着紙。昔のハエ取り紙をビッグサイズにしたようなイメージ。
			根元から粘着シートを巻きつけていく。概ね80cm~1m程度の高さにカシノナガキクイムシの侵入痕跡があるので、その周辺を重点的に巻き込む作業となる。株の根元あたりは、1枚の粘着紙(1036×290mm)では巻ききれない樹もあり、1株あたり3~4枚程度は必要。

2011年8月4日 回収



テープ外面には、アリ・蛾・ハエ・ムカデ・ケムシなどの他いろいろな生きものがくっついていたが、内外面とも一見はっきりとカシノナガキクイムシと思われる個体は見つけられなかつた。実際の被害状況からみてもゼロであるはずはないが、ノウハウ不足かも・・・。



2017年9月5日 6年を経て再度被害状況発見



(例木2)

浸食穴から掻き出して根元に落ちた食べかのすプラス。

浸食の進み具合は、すぐには伐倒の対象までではなく、始まったばかりの様子だが、対策が急がれる。



(例木1)

観察小屋の中に残したコナラの木も被害に遭つた。今回はこの発見から被害調査が始まった。

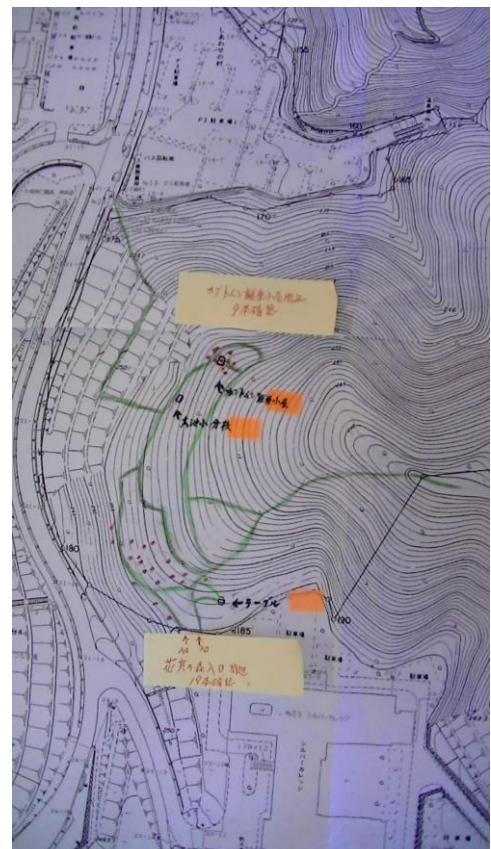


木の中に侵食しているカシノナガキクイムシの侵入口部分はこんな感じ

2017年9月8日 緊急活動で対応



早速浸食された木には黄色のテープ表示をし、後の対策の目印に。



林内散策路周辺の調査可能な範囲を調べて回る。今回確認できたのは上の図のところ。観察小屋周辺と、花実の森入口付近。

* * * * *

この度、しあわせの村緑地課から提供していただいたカシノナガキイムシ駆除用粘着紙“カシナガホイホイ”的巻き込み作業を実施。今回は、6本の樹に施したが全被害木(昨年9月に確認した被害数28本)の巻き込みには粘着紙の不足が考えられるため、急きよ緑地課へ100枚の追加提供をお願いし、至急手配の承諾をいただいた。今年は気温の上昇も早いため4月20日頃までには残りの被害木への巻き込み処理を終えたい。



今回は根元からの侵入痕跡が多かったので、その周辺を重点的に巻き込む作業となる。株の根元あたりは、1枚の粘着紙(1036×290mm)では巻ききれない樹もあり、1株あたり3~4枚程度は必要。

2018年4月9日



カシナガが侵入したコナラの下部 1.5m に、カシナガホイホイの粘着面を内側に撒きつけていく。初夏に羽化して出てくる成虫が飛び立つ前に、この粘着紙で捕捉できればと願いながらの作業。未処理の木が残ったが、カシナガホイホイ入荷次第実施に予定。



2018年6月27日



残っていたナラ枯れの心配のあるコナラに、購入したカシナガホイホイの巻付けを行なつたが、時期的にギリギリか遅かつたかわからない。晩夏の取り外し時に判断する。

